令和３年度の事業報告書

令和３年４月１日から令和４年３月３１日まで

ＮＰＯ法人福祉事業大輪の花

１　事業の成果

　令和３年度も新型コロナウイルス感染症の影響が続く中でのスタートとなった。まだまだ不安定な状況の中で衛生保持や健康管理に気を付けていたが、法人では初めて利用者様から陽性者が発生した。発生後は保健所の指示により事業所が休業となり、その対応に追われ、運営にも影響を受けた。

　発生源も明確化されていた為にその後の対策を確実に行えたことで蔓延することはなく、当該利用者様の症状的には軽症で大事には至らなかった。その成果もあり休業明けには通常通りの営業となった。

　法人内での直接の陽性者はこれに留まりましたが、ご家庭内やご家族様の仕事場、学校での陽性者発生に伴い、随時対応に追われた１年だった。

　その不安定な状況下においても、利用者様の通所回数、授産品の販売、企業様からの作業受託量については、大幅に減少することもなく、売り上げを前年度同様に維持することが出来た。

　いかなる状況においても臨機応変に対応し、前向きに運営することで現状維持の結果を出した。

　就労継続支援Ｂ型事業所ＫＯＫＯＲＯ本舗では、やはりコロナ禍により授産売上げに影響した。

その状況下においても明るい兆しもあり、授産作業では、コロナ禍で委託停止中であった作業も徐々に再開され、売り上げも徐々に回復した。又、２月からは、（株）合馬天然水様より新商品となるお菓子「水玉ぷるん」の製造依頼を受け、正式に受託した。短期間で製造工程を習得し、練習を重ね、授産製品として納品を開始した。本商品は（株）合馬天然水様が販売を行いますが、合馬茶屋様での販売を皮切りに、今後はデパートやネット販売等に展開していく予定である為、継続して委託される見込みである。製造は少し難易度が高く、製作数量に限界はありますが、出来る限り要望にお応え出来るよう努力する。

　又、夏季に門司駅近隣の某物件でカフェレストランの開設を進めていたが、コロナ禍の影響等もあり実現出来なかった。しかしながら利用者様には開設準備に向けて定期的に調理の実習を行った。包丁や火を使うことに少しずつ慣れている。不安定な環境の中で鍛えられ、精神面や体力面でとても強くなったと感じる。着々と実現に向けて前進している。

　もじのちいさなおかしやさんでは、新商品の「もじのクロワッサンワッフル」が好調な販売となった。チョコ味も追加され、利益率も高い主力の商品となった。

　例年に開催されていた各イベントの参加については、令和２年度と同様に大里南市民センターでのバザーのみが春と秋に実施された。又、大きなイベントでは門司港グランマーケットが春と秋に開催され参加した。例年では公共、一般、学校等の催事は年間３０～４０箇所で行われ参加させて頂いたが、令和３年度も年４回だけのイベント参加となった。やはり年間の売上げ減少に大きく影響した。

　カフェレストランへの移転を目指して、接客マナーや配膳の練習を繰り返し行った。同時に６月に施行された食品衛生法の改正に準じた衛生面の強化を行った。

生活介護みんなの王国では、昨年度、利用者様及びご家族様から、はじめて新型コロナウイルス感染症の感染者が発生した。それに伴い保健所から臨時休業（７月３０日から８月７日までの９日間）の要請を受けることとなった。臨時休業の影響は想像以上に大きく、事業所の休業期間中、利用者様の支援の低下、ご家族様や関係機関の皆様の負担の増加に繋がった。また、一時的ではあるが事業所の売上も大幅に減少することとなった。

（北九州市障害者芸術祭）

臨時休業をはじめ新型コロナウイルス感染症の対策や対応に追われる中、昨年度に続き今年度も「北九州市障害者芸術祭」に事業所を挙げて参加した。感染症に警戒しつつも毎日作品の制作に尽力した結果、２年連続で入賞者を出すことが出来た。昨年度入賞を逃した利用者様も、今年度は入賞することが出来、利用者様もご家族様も大変喜ばれ、また担当した職員も違った形の利用者支援を経験することが出来た。

（重度障害者用意思伝達装置の事例報告）

２月には北九州市地域リハビリテーション推進課が主催する研修に事例報告事業所として参加した。事例報告内容としては「重度障害者用意思伝達装置の導入事例」であったが、数あるコミュニケーションツールの中から、対象者の状態に併せて「組み合わせたり、使い分けたり」する必要があることや、制度上の手続き、導入から実際の設置、使用までなどを網羅した幅広い内容の事例報告であった。

今回、北九州市が主催する研修に事例報告者として初めて参加させていただいたが、市内１，２００以上の事業所から選ばれたことは大変光栄なことであり、代表者として発表した職員2名は貴重な経験が出来た。感染対策に追われる中、通常業務終了後に連日発表資料の作成やリハーサルを行い、また北九州市との入念な打ち合わせも行った。当日はコロナ禍ということもあり、オンラインでの発表となった。不慣れな場ではあったが、発表を見ていただいた多くの事業所や医療機関から賞賛を受け、また北九州市からも多くの感謝の意をいただくことが出来た。何よりも本事例の対象者となった利用者様が涙を流して喜ばれていたことが、日頃からの支援を物語っているのではないかと思える。事例報告終了後、医療機関や福祉事業所から日頃の支援方法や関わり方、また新たな取り組みについてなどの問い合わせを多くいただき、事業所のＰＲ効果としても大変大きな成果を残すことが出来た。

（収入）

事業所の収入としては、臨時休業の影響により一時的に売上が低下する月もあったが、新たに新設された加算（常勤看護職員等配置加算Ⅲ、重度障害者支援加算Ⅰ）等の取得を実施し、またコロナ禍ではあるが新規の利用者様も増えたことにより、前年度比１１３％を達成した。

２　事業の実施に関する事項

1. 特定非営利活動に係る事業

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 定款の事業名 | 事業内容 | 実施日時 | 実施予定場所 | 従事者の人数 | 受益対象者範囲及び人数 | 事業費の金額（千円） |
| ①障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業 | 就労継続支援Ｂ型事業 | 通年 | 北九州市内 | ９人 | 障害者40人 | 　64,562 |
| 生活介護事業 | 通年 | 北九州市内 | 13人 | 障害者30人 | 　65,535 |
| 授産委託作業、授産品販売（委託作業、菓子等の製造販売） | 通年 | 北九州市内 | ２人 | 一般市民多数 | 　10,756 |
| ②障害者総合支援法に基づく一般相談支援事業および特定相談支援事業 | 実施なし |  |  |  |  |  |
| ③障害者総合支援法に基づく地域生活支援事業 | 実施なし |  |  |  |  |  |
| ④障害者の福祉向上のための啓発及び情報提供事業 | 実施なし |  |  |  |  |  |
| ⑤児童福祉法に基づく障害児通所支援事業 | 実施なし |  |  |  |  |  |
| ⑥児童福祉法に基づく障害児相談支援事業 | 実施なし |  |  |  |  |  |

 (2)　その他の事業

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 定款の事業名 | 事業内容 | 実施予定日時 | 実施予定場所 | 従事者の予定人数 | 受益対象者範囲及び予定人数 | 支出見込み額（千円） |
| 物品販売事業 | 実施なし |  |  |  |  |  |